



## 令和5年度 総合的な学習の時間 小学3・4年生 「来てみて布野！～伝えたい！布野の自まを長江小に～」

### phase① 課題との出会い



布野にはたくさん自まんでできることがあるよね！

アスパラ作りと長江小との交流は続けたい！

↓だったら！！

「長江小の人に、ぜひ布野に来てもらって、喜んでもらって、また来たい！と思える布野にしよう！」

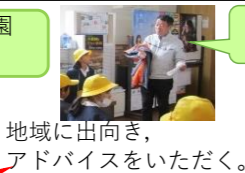
探究の過程を何度も繰り返す

### phase② 計画を立てる

(日時・相手) 令和5年11月 尾道市立長江小学校（4年生）  
(場所・方法) 尾道市 長江小学校4年生に、布野を紹介するプレゼンテーションをする。  
(条件) ・長江小の人が、布野に「行きたい！」「楽しい！」「また来たい！」と思ってもらえるようなプレゼンテーション内容にすること。  
・布野のよさが一目で伝わり、「行きたい！」と思ってもらえるキャッチコピーを考えること。

### phase③ ゴールに向けて友達と話し合いを行いながら活動に取り組む

空き地を活用して公園を作れないかな？



地域に向き、アドバイスをいただく。

来てもらいたいなら動画を作ってYouTubeで発信しては？



動画を編集し、布野の良さが伝わるキャッチコピーを考え、パンフレットを作る。

経費の問題で断念！でも！

布野の自まはまだある！

実際にお客さんにインタビューしよう！

どう撮影すれば道の駅のよさが伝わるかな？

パンフレット完成！！



### phase④ 発表・振り返り (長江小との交流会)



長江小との交流会で、パンフレットを手に布野を紹介。  
振り返り・次の探究へ「これまでの成長を2分の1成人式で披露したい！」

## 令和5年度 総合的な学習の時間 中学3年生 「地域について学んだことを発信しよう～地域をより良くするために自分たちができることを考えて実行しよう～」

### phase① 現実の文脈に沿った課題と出会う

【昨年度までの取組】  
布野の特産品を使ったアスパラ生クリーム大福を企業と協働して開発し、販売プロモーション活動を行った。

【生徒が見つけた問い(単元を貫く問い)】  
布野の人々の生活をより良くするために、私たちは何をしなければいけようか。

探究の過程を何度も繰り返す

### phase② 成果の発表について事前に詳しく示される

(日時) 11月下旬～12月上旬  
(方法) 布野の課題やふるさと納税によって期待できること等についてスライド資料を作成して発表  
(相手・場所) 三次市役所地域振興部定住対策・暮らし支援課の方々  
(準備に使える授業時間) 28時間

### phase③ 成果の発表に向けて、自分たちで学習を調整しながら粘り強く取り組んでいく



### phase④ 成果の発表と探究活動全体を俯瞰した振り返りを行う



活動の振り返り  
・ふるさとを大切に思う気持ちを持ち続け、自分ができることを実行していきたい。  
・他の市へ出て色々なことを学び、それを布野に持ち帰って活かしていきたい。

【次の探究に繋がる問い】  
自己の在り方・生き方を考えながら自分の特性をどのように活かして社会と関わっていくか。

# 児童・生徒が本気で探究し、主体的に学びを深める授業を創いませんか？



交流から課題を見出す



活動計画を立てる



販売活動とインタビュー活動



地域活性化プロジェクト案の提案



専門家・企業・行政などへのインタビュー

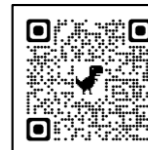


新たな課題の発見

このリーフレットを参考に、探究的な授業を創り、児童生徒の資質・能力を育成していきましょう！

# 探究を充実させる4つのポイント！

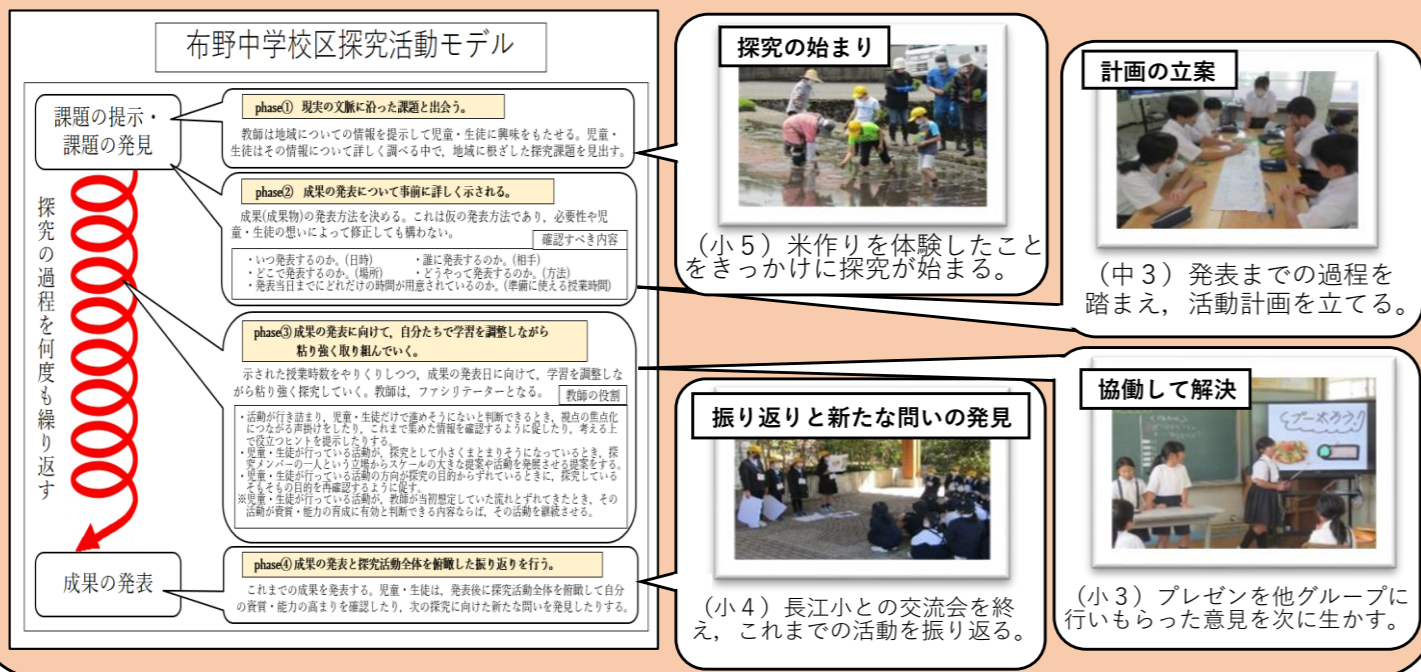
図や表を拡大してみたい方は、こちらのQRコードをご活用ください。



## PBLの考え方を取り入れた探究的な授業

### PBL(プロジェクト型学習)

「授業での子供たちの学びをプロジェクトとして組織し、その達成へと促す手法」であり、実生活・実社会の「答えがない問い」を扱い、その解決に向けて探究し、解決策を社会に提案・発信する。



## ルーブリックを活用した評価

布野中学校区  
オリジナルカリキュラム  
9年間を初期・前期・中期・後期  
に分け、資質・能力を段階的に育成

### 資質・能力を見取るルーブリック

	A	B	C
課題解決に必要な知識及び技能を習得し、実践に活用できる観念を形成している。	課題解決に必要な知識及び技能を習得し、課題に活用できる観念を形成している。	課題解決に必要な知識及び技能を習得し、課題に活用できる観念を形成している。	課題解決に必要な知識及び技能を習得し、課題に活用できる観念を形成している。
話し合いを通して、考えを整理・適応させ、合意点を見出すことができる。	話し合いを通して、考えを整理・適応させ、合意点を見出すことができる。	話し合いを通して、自分の考えを見出し、新たな観念をもつたりすることができる。	話し合いを通して、自分の考えを見出し、新たな観念をもつたりすることができる。
自分が取り組むべきことを明らかにし、必要に応じて役割分担を担い、修正を加えながら取り組みを進めようとしている。	自分が取り組むべきことを明らかにし、必要に応じて役割分担を担い、修正を加えながら取り組みを進めようとしている。	自分が取り組むべきことを明らかにし、必要に応じて役割分担を担い、修正を加えながら取り組みを進めようとしている。	自分が取り組むべきことを明らかにし、必要に応じて役割分担を担い、修正を加えながら取り組みを進めようとしている。
自らの目標は、「学びに向かう力、人間性等」の「個別学習状況の把握や確認」に該当する。個人内評価を通じて見取る部分。知識・能力であるため、ルーブリック評価による一律の評価は行わず、子ども一人一人の思いや可能性、進捗の状況を見据えて、それを評価していく。			

教師は、行動観察や振り返りをルーブリックで評価して、指導改善に生かす。



これおもしろいな～これもおもしろいな～(目的から離れていく)

### ①ルーブリックを活用した評価

・見通しをもって進められていないな。  
・目的も意識できていないぞ。

### ②評価結果の活用

【教師のファシリテート】  
・何のためにやってるんだっけ？  
・中間発表まであと何日かな？

あと3週間で発表するんだっけ！手分けして調べて、プレゼンを作っていこう！

児童・生徒は、本時の目標に対してルーブリックを活用した自己評価(振り返り)を行い、主体的な学び手となる。



【生徒の振り返り】  
今日の自分はB評価だった。様々な状況に対して適切に対応するために、周りをよく観察してやり方を決定していくようにしたい。

## 対話の充実

児童・生徒同士が、お互いに聞きたいことを率直に聞き合うことで相互理解が深まっていく！

発表者	聴き手	全体
新たな視点に気づき、新たな課題を見出せる。	発表内容や発表した友達の考えへの理解が深められ、自分の考えと比較ができる。	質問が集中したり、繋がったりした内容部分から中心課題を見出せる。

対話を充実させるための指導・支援

- 対話の場面や方法をふまえた単元計画の立案
- 「考えるための技法」や「対話のための技法」の活用
- 正解より考えを出し合い最適解に導くことが大切という価値観の共有
- 能動的に聴き合わせる

### 能動的に聴き合うためのポイント！

**探究に関わる全員で「探究の目的」を確認し「単元を貫く問い」を設定する。**

(中1) 布野を活性化するために、地域資源をどのように活用していけばよいか意見を出し合い考える。

**探究課題に対する意欲を高めさせ、主体的に活動に取り組みさせる。**

(小5) 育てた米をまずは自分たちが食べ、その魅力を全校にも伝えるための案を考え合う。

**対話の前に自分の考えがもてるよう、課題と向き合い考える時間を確保する。**

(小1) 対話の前に、自分が秋見つけで撮影した写真に気づきを書き込み、それを基に話し合う。

## “本物”の探究

児童・生徒が主体的に真剣に課題解決をしている

- 課題解決が発展的に繰り返される
- 物事の本質を探ってみ極める
- 各教科等で育成された資質・能力が繰り返し活用・発揮される
- 自己の生き方を考える



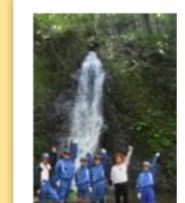
**年長さんと秋見つけ(小1)**  
年長さんと一緒に会い見つけ。「年長さんに楽しんでもらえるおもちゃを作りたい！」という思いをもつ。



**布野図書館見学(小2)**  
学校図書室と比較するために、布野図書館を見学。働く人の工夫を知り、人が来なくなる図書室の改善につなげる。



**生産者の思いを知る(小6)**  
商品のメニュー開発を行う上で、生産者の思いを知る。この思いが大切だと知り、開発に向けて探究が始まる。



**八千代滝視察(中1)**  
地域の価値ある資源を再発見。滝の迫力や水の涼しさ等、この感動を多くの人に味わって欲しいとプロジェクトへの意欲を高める。



**大学生との交流(中2)**  
地域活性への思いをもつ大学生と交流。その熱意に触れ、地域活性について考え、自分たちができることを考え始める。



**インタビュー活動(中3)**  
地域の方に、地域への思いや困っていることをインタビュー。地域の課題を見付け、解決に向けて探究が始まる。